

放課後等デイサービス見学

教官 中山 美加

近年、発達障害児の占める割合が高い状況にあるため、障がい児と家族が地域でどのようなサービスを利用し生活をしているのかなど、障がいのある子どもと家族の支援について学ぶため、瀬戸内市にあるNPO 法人コミュニケーションネットワーク Links の「放課後等デイサービス」の施設見学に行ってきました。昨年度と同様、Links の理事長 渡邊則子先生から、Links の概要や児童発達・放課後等デイサービスや、小規模住居型児童養育事業「ファミリーホーム」についての説明を受けました。その中で、「地域で子ども達を育て、皆で支え合うことで笑顔になる町づくりを目指していること。」や「地域にある企業や地域の方とともに子ども達の成長を見守っていること。」など、説明を受けました。そして、「利用している子ども達は自己肯定感が低い傾向にある。また、その子の親は自己否定の傾向が強い。そして一人で悩みを抱えていることが多い。そのため、子どもだけではなく親の支援も行なっている。子ども達と関わり、子ども達の自己肯定感を高める関わりをしていきましょう。」と伝えられました。



その後、学生は支援員の方々と共に利用児と関わらせていただきました。ハムスターと一緒に遊んだり、立体パズルや工作、プールなど、子ども達自身が行いたいことを支援員に伝え、子ども達の主体性を尊重した関わりを見学することができました。最初は子どもとの挨拶もぎこちなかった学生も、子どもと関わり「すごいね。早くできあがったね。」など、少しずつ子どもの自己肯定感を高める関わりができるようになりました。そして、送迎時の保護者と支援員の関わりを見ることができました。支援員が保護者にその日に行なったことやうまくできたことなどを伝え、保護者に対する自己肯定感を高める関わりを見ることができました。

学生は、「子ども達にできていることを伝えると、子ども達の表情が明るくなった。その後、自ら話しをしてくれるようになり自然に会話が広がっていった。褒められたことで、自分の努力を認められたと感じ、自己肯定感を高めることができたのだと思う。これが渡邊先生の言われた、『褒めることの大切さ』なのだと学ぶことができた。」や、「保護者と支援員の関わりを見学し、子どもを誇らしく感じられる声かけを行っていた。さらに、保護者の頑張りを認めることで保護者の自己肯定感が上がり、それが子どもの自信にもつながっていくことを教えていただき、子ども一人ひとりに寄り添い、保護者への支援の大切さを学ぶことができた。」など、多くのことを学んでいました。



11 月には、「ファミリーホーム」で子ども達と関わり、子ども達の暮らしを理解してきます。子ども達が地域で生活し続けるための支援を考えていきます。

今回、RSK テレビの取材もありました。

